

## 解説

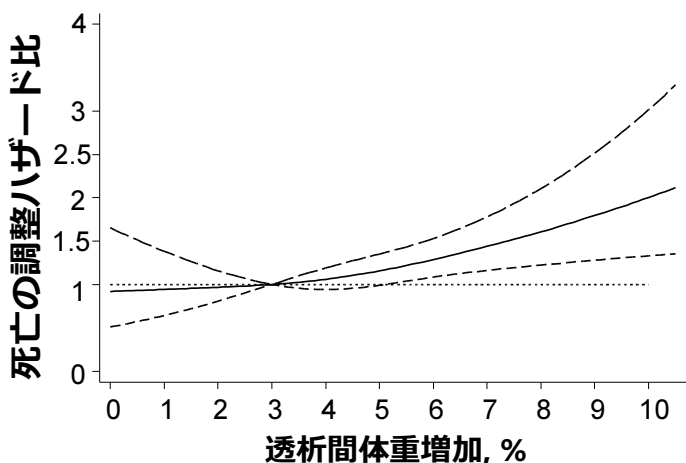
Journal of Renal Nutrition 2017; 27: 421-429.

### Interdialytic Weight Gain and Mortality Association With Serum Albumin Interactions: The Japanese Dialysis Outcomes and Practice Pattern Study.

Kurita N, Hayashino Y, Yamazaki S, Akizawa T, Akiba T, Saito A, Fukuhara S.

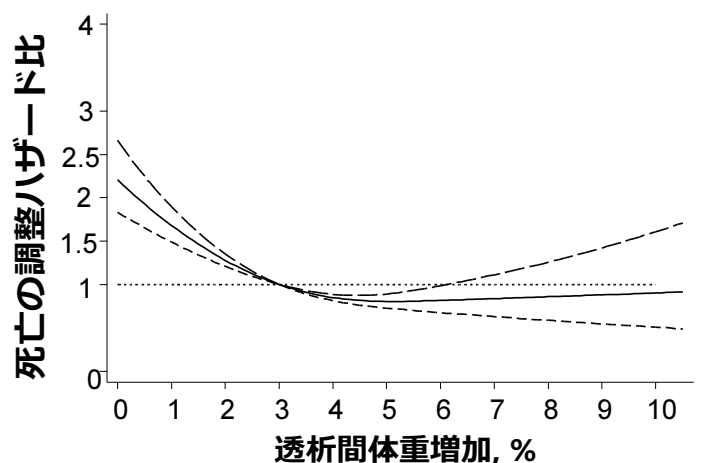
血液透析患者の透析間体重増加の上限値が国内の診療ガイドラインに記されている。しかし、根拠とする透析間体重増加と生命予後の関係性の研究結果には、栄養状態や治療条件の影響も絡むため不一致があった。本邦で週3回の血液透析を受ける8,661名の患者が対象の本研究では、血清アルブミンが3.8 g/dL以上（国際腎臓栄養代謝学会の基準）の場合のみ、過剰な透析間体重増加(7%以上)が予後不良であった。血清アルブミンが3.8 g/dL未満の場合、透析間体重増加が少ない場合(2%未満)と中等度の場合(4%-5%)が、それぞれ予後不良・予後良好であった。透析間体重増加の管理やガイドラインの改訂の際に、この個別性を考慮する必要性を提唱した。

血清アルブミン値  $\geq$  3.8 g/dl



----- 95%信頼区間下限    - - - - 95%信頼区間上限

血清アルブミン値  $<$  3.8 g/dl



----- 95%信頼区間下限    - - - - 95%信頼区間上限